

聖書日課 『からし種』 2022.5.1-5.8

<p>5月1日 (日) フィリピ 2章</p>	<p>「わたしの愛する人たち、いつも従順であったように、わたしが共にいるときだけでなく、いない今はなおさら従順でいて、恐れおののきつつ自分の救いを達成するように努めなさい」(12節)。十字架で復活した主イエスが今、私たちには見えなくても、主の教会につながる者として、主が託して下さった働きを大切に進めていくことができますように。</p>
<p>2日 (月) フィリピ 3章</p>	<p>「なすべきことはただ一つ、後ろのものを忘れ、前のものに全身を向けつつ、神がキリスト・イエスによって上へ召して、お与えになる賞を得るために、目標を目指してひたすら走ることです」(13-14節)。キリストの十字架は、過去の出来事だけれども、私たちが見つめる先に確実にある。その十字架を見つめつつ、福音宣教の働きに仕えます。</p>
<p>3日 (火) フィリピ 4章</p>	<p>「どんなことでも、思い煩うのはやめなさい。何事につけ、感謝を込めて祈りと願いをささげ、求めているものを神に打ち明けなさい。そうすれば、あらゆる人知を超える神の平和が、あなたがたの心と考えとをキリスト・イエスによって守るでしょう。」(6-7節)。主の伴いを感じつつ、今私たちに託された働きに仕えることができますように。</p>
<p>4日 (水) コロサイ 1章</p>	<p>「この秘められた計画が異邦人にとってどれほど栄光に満ちたものであるかを、神は彼らに知らせようとされました。その計画とは、あなたがたの内におられるキリスト、栄光の希望です」(27節)。ユダヤ人だけでなく、異邦人にとっても十字架の福音は、その人の希望になり得る。教会の頭であるキリストの働きを共に分かち合うことができますように。</p>

メール配信登録メール senfkorn.obc@gmail.com

大井バプテスト教会

メール配信希望の方は名前とアドレスを明記の上、上記のアドレスまで

聖書日課 『からし種』 2022.5.1-5.8

<p>5日 (木) コロサイ 2章</p>	<p>「キリストはすべての支配や権威の頭です」(10節)、「この頭の働きにより、体全体は、節と節、筋と筋とによって支えられ、結び合わされ、神に育てられて成長してゆくのです」(19節)。神はそれぞれの賜物をつなぎ合わせてくださり、必要な働きのために用いて下さる。一人では小さな存在でも、一人ひとりの働きが豊かな実りへとつながられていく。</p>
<p>6日 (金) コロサイ 3章</p>	<p>「もはや、ギリシア人とユダヤ人、割礼を受けた者と受けていない者、未開人、スキタイ人、奴隷、自由な身分の者の区別はありません。キリストがすべてであり、すべてのもののうちにおられるのです」(11節)。キリストと出会うとき、私たちの枠が、その時代や社会の価値観から、キリストの価値観へと広げられていく。その枠の広がりを喜んで受け取っていききたい。</p>
<p>7日 (土) コロサイ 4章</p>	<p>「時をよく使い、外部の人に対して賢くふるまいなさい。いつも、塩で味付けされた快い言葉で語りなさい。そうすれば、一人一人にどう答えるべきかが分かるでしょう。」(5-6節)。主の言葉は耳障りのよいものだけではない。主の福音は、私たちを整えるだけでなく、私たちの命(存在)を育む言葉。キリストの香りのする塩味の言葉を私たちもいただいて歩みたい。</p>
<p>8日 (日) I テサロ ニケ 1章</p>	<p>「あなたがたの信仰の働きと、愛の労苦と、わたしたちの主イエス・キリストに対する望みの忍耐とを…絶えず思い起こしている」(3節:口語訳)。「信じて働き、愛に労し、望んで耐える」。山陰の小さな教会の礼拝堂に掲げられていた書を思い起こす。主からいただく「信仰と愛と希望」が一人ひとりの祈りの働きとなり、共に主の業に仕えることができるように。</p>